

光電子付与装置

dileka

ディレカ



※厳 守※

取 付 施 工 要 領 書

このたびは、本商品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

もくじ

1. 取付前のご準備……………1
ディレカ水と水道水の比較
2. 梱包内容……………2
ご用意いただく商品
3. 製品各寸法……………3
4. 取り付け時の諸注意……………4
5. ディレカの取り付けについて……………5
6. ディレカの取り付け例……………7
7. ITBの設置方法……………8

- この取付施工要領書を、施工工事前に十分にお読みのうえ、内容に従って取り付けを行ってください。また、ご使用になる方がいつでも見られるところに保管してください。
- 保証書申込時には、本商品を設置した状況の写真が必要となります。忘れずに3～5枚程、設置した商品、現場の撮影をしてください。
- 「取付施工要領書」の内容に沿って、正しく取り付け、および正しく使用されなかった場合の製品の不具合、故障および事故について、当社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

1. 取付前のご準備

～ディレカ水と水道水の比較について～

ディレカ設置後、ディレカの効果やディレカ水と水道水との違いを実感していただくことが大切です。そこで、取り付け前後の水の違いを比較してみてください。簡単な方法ですので、是非お試しください。

- (1) ペットボトルや水筒、タンブラー・ピッチャーなど、採水した水を保存できる容器をご用意ください。
(1リットル程度あれば十分です)



水道水



ディレカの水

- (2) ディレカを取り付ける前に、浄水器などを使っていない普通の水道水(原水)を、用意したペットボトルや水筒などに採水しておきます。尚、設置完了までに約1～2時間かかり、その後の比較テストのため、採水した水は涼しいところに置いて、温度変化が少ないようにしておいてください。長時間置いておくと、塩素の臭いが抜けてしまい、わかりにくくなる場合がありますので、しっかりと蓋をしめてください。

- (3) ディレカを取り付けた後の水を採水します。先ほどと同様に、浄水器などを使っていない水を採水してください。尚、取り付け直後の水には配管の臭い、糊の臭いが水に混ざっている場合がございますので、2～3分程通水し、配管内に入り込んだ空気や臭いなどを抜いてから、コップに採水してください。

- (4) 実際に比較します(味覚判断ですので、多少の個人差があるようです)。

ディレカ取り付け前の普通の水道水と、取り付け後の活性化された水をそれぞれ飲み比べてください。臭い・味・硬さ・柔らかさ・なめらかさ・チクチク感・ザラザラ感・とろみ具合・刺激感・のどごしなどを比較してください。

ディレカ取り付け後の水を先に飲んでから、取り付け前の普通の水道水を飲むと、違いが良くわかります。わかりにくい場合は、それぞれの水を交互に飲み比べてください。

- (5) コーヒー、日本茶、紅茶などで飲み比べると、コクや味わい、まろやかさなど、おいしさを一層感じられます。

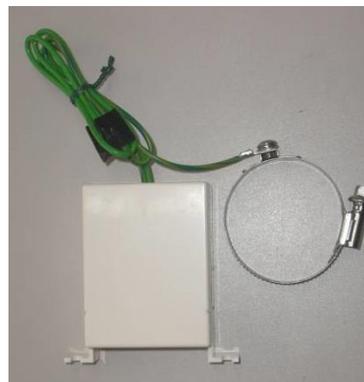
また、飲み比べだけでなく、手触り感、特に入浴時に違いを感じられる方も多くいらっしゃいます。水道水と比べ、とても柔らかく・なめらかになっている、塩素臭が抑えられているなどのお声を頂きます。是非、ディレカ設置後しばらくは、ディレカ水を意識しながらお使いくださいませ。

2. 梱包内容

※開封時に下記の商品が全て同梱されているか確認してください。



ディレカ本体
(写真はディレカ5040)



ITB (Ion Tuning Box)
(コンデンサーに同梱されていません)
(交換の目安は5年です)



緩衝材
(ディレカ5040・50RS・40RS、
コンデンサー5040のみ)

※納品時にディレカを梱包している発泡スチロール緩衝材は設置時に保温断熱部材として使用します。箱から取り出した後、破棄しないで下さい。
また、40RSに巻きつけているバブルラップも破棄せず、ITB取り付け後、再度本体に巻き付けた後、緩衝材を設置してください。

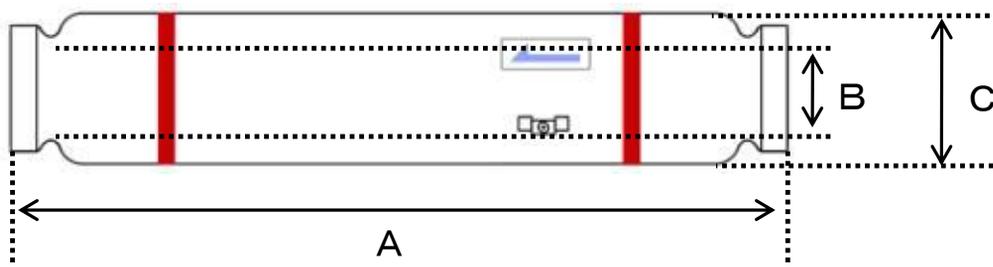
※接続部材の他にご用意いただく部材



※地中埋設の場合は、ディレカ本体の確認や、ITBの交換が行いやすいように、量水器BOXやU字溝をご用意ください。
ディレカ5040の場合、20-25サイズが推奨です。

3. 製品各寸法

■ デイレカ本体

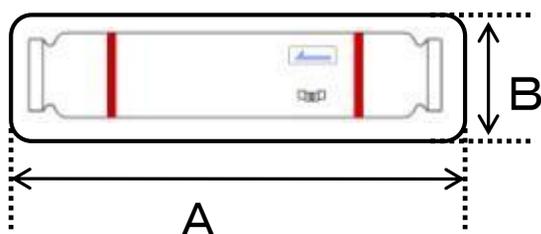


	全長 (A)	接続部分の 配管口径(B)	コンデンサーの 内径	外径 (C)	重量
5040	426mm	25mm	50mm	69mm	4.2kg
50RS	347mm	25mm	50mm	69mm	3.3kg
8065	766mm	65mm	80mm	100mm	13.0kg
40RS	398mm	20mm	40.6mm	55mm	2.7kg

■ デイレカ・コンデンサー

	全長 (A)	接続部分の 配管口径(B)	コンデンサーの 内径	外径 (C)	重量
5040	285mm	25mm	50mm	69mm	2.4kg
8065	475mm	65mm	80mm	100mm	7.4kg
40RS	267mm	20mm	40.6mm	55mm	1.8kg

■ デイレカ付属緩衝材



	全長(A)	外径(B)
5040 40RS	446mm	110mm
50RS	367mm	110mm
コンデンサー 5040	305mm	110mm

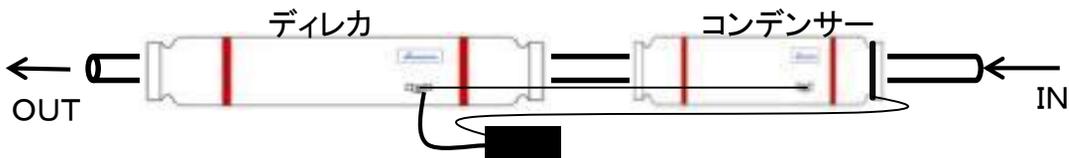
※「水道法適合」自己認証品 デイレカ

「自己認証制度」とは給水装置の製造業者が、自ら製造過程の品質管理や製品検査を適正に行い、水道法の性能基準に適合した製品であることを自ら認証する制度です。水道法基準に適合した製品であることの証明は「給水装置性能基準適合証明書」によって行います。詳細については、販売店までお問い合わせください。

4. 取付時の諸注意

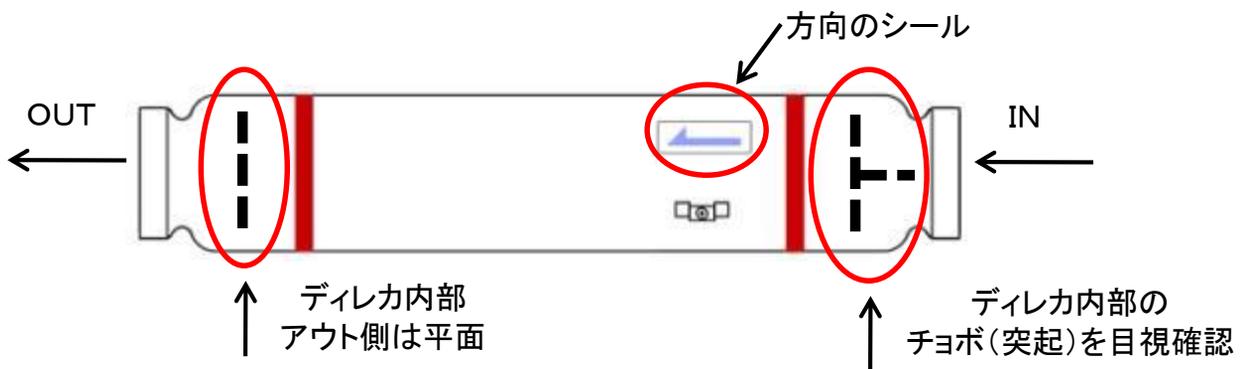
① 取付箇所の選定（元付けタイプ）

- ・水道メーターのアウト側（2次側）に取り付けて下さい。その際は、ディレカをメーターから50cm以上離して取り付けてください。地下水（井戸水）の場合は汲み上げポンプの出口側（2次側）に取り付けて下さい
- ・ITBは交換が必要のため、埋設取付の際は、量水器BOXやU字溝などを使用して、ディレカを設置してください。また、ITBの交換が簡単に行えるよう、ディレカ本体のITB端子が正面を向くように設置してください。
- ・コンデンサー併設の場合、水道メーターの後ろ側に、コンデンサー⇒ディレカの順番で取り付けてください。ディレカの後にコンデンサーを取りつけてしまうと、効果が発揮されません。



② イン→アウト確認（逆付け厳禁）

- ・本体に添付されているシールの矢印の方向（水の流れる方向）と、本体内部のチョコボ（イン側の取り付け口内から見える突起）を確認し、取付方向を間違わないようにしてください。（アウト側は平面）
- ・イン→アウトを逆に取り付けると、製品の能力が損なわれ、事故・故障の原因となります。



③ ディレカの取り付け可能な標準メイン配管口径（使用用途により異なります）

- ・5040-25 ⇒ 25Aまで対応 / 5040-40 ⇒ 32Aまで対応
- ・8065 ⇒ 50Aまで対応

※万が一、水道水の不具合でディレカ内部が詰まる等、不測の場合が生じた時の為に、バイパスの設置を推奨します。

※各自治体の施工基準を確認してください。例えば、東京都施工基準では、原水（ディレカを通水していない水）の水質検査に対応するため、ディレカの前に蛇口を設置。水道本管への逆流を防ぐため、逆止弁の取り付けを促しています。

≪ 例：水道メーター ⇒ 水栓 ⇒ 逆止弁 ⇒ ディレカ ≫

5. ディレカの取り付けについて

1. ディレカの接続準備

配管のサイズに合わせた、ブッシングなどを用いて取り付けください。

①



床へ汚れや傷が付かないよう段ボールなどで養生をしてから、作業を開始してください。

②



接続に使用するブッシングやユニオン、ニップルは既存の配管に適した部材を選んで使用して下さい。



ロングニップル使用時の例

③



ディレカと継ぎ手の接続にはヘルメチックとシールテープで、接続して下さい。



ディレカ及び配管に傷が付かないよう、モーターレンチ、モンキーをご使用下さい。

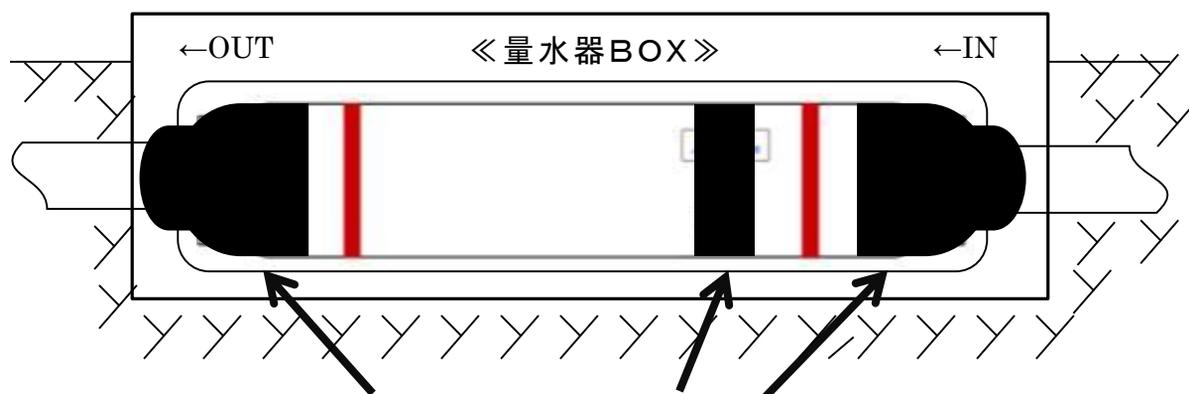


完成例 〈ロングニップル使用時の例〉

2. 設置時の注意点

- ・埋設時には、量水器BOXやU字溝を必ず使用してください。
- ・ITB設置後(P8参照)、下記の図の通り、ディレカとITBの接続端子と、ディレカ本体の接続部分から絶縁シートが貼ってある部分(両端共)まで防食テープを巻き、付属の緩衝材に入れてください。
- ・寒冷地等で配管に凍結防止対策が施してある場合、本体にも凍結防止対策を施して下さい。
- ・設置スペースが確保できない場合は、緩衝材をはずして設置してください。その際は、必ず防食テープを、接続部分から反対側の接続部分まで、ディレカごと巻きつけて設置してください。

- ・緩衝材に穴が開かないようにしてください。浸水してくる場合があります。
- ・緩衝材は2つに分かれるようになっていますが、設置時には、緩衝材の合わせ部分に、防食テープを貼って下さい。ディレカ5030やコンデンサーの場合は、緩衝材自体にいくつかの接着跡がありますので、その部分にも防食テープを貼って設置して下さい。
- ・ディレカ8065には緩衝材は付属しておりません。必ず、ディレカ(両脇の接続部分を含む)を丸ごと防食テープを巻いて下さい。



ITB設置後(P8参照)、防食テープを巻く

- ・塩ビ管の接着剤は塗りすぎないように注意して下さい。配管内に多量に入ると、本体のイン側に詰まる可能性があります。また、一定期間臭いが出るため、異臭の原因になりやすくなります。
- ・HI配管の場合、事故と本体故障防止の為、接着剤が完全に硬化するまで水を流さないでください。接着剤のカスで、本体IN側が詰まる原因となります。

- ・メーターボックス内への取り付けや、地上に露出配管される場合は、接続配管に重量負荷をかけないよう、必ず、支持固定を施して下さい。接続配管がHI配管の場合、接着部分に強い重量負荷が掛かると、通水した際に水圧で抜けてしまう危険性がありますので注意して下さい。

6. ディレカ取り付け例

① 量水器BOXへの取り付け



ITB取り付け後、上記写真の通りに防食テープを巻き、緩衝材を装着した後、合わせ部分に防食テープを貼ってください。

② メーターボックス内への取り付け



接続配管に重量負荷をかけないように、必ず、支持固定を施して下さい。

ディレカと固定器具を直接接触させないでください。スペースがなく、直接接触固定をする場合は、必ずゴムなどの絶縁体を挟んで固定してください。

③ 露出配管、又は緩衝材を使用できない場合



露出配管の場合、緩衝材が外れないように、防食テープを接続部分だけではなく、緩衝材も巻いてください。

緩衝材が使用できない場合も、必ず防食テープを、接続部分から反対側の接続部分まで、ディレカごと巻きつけてください。

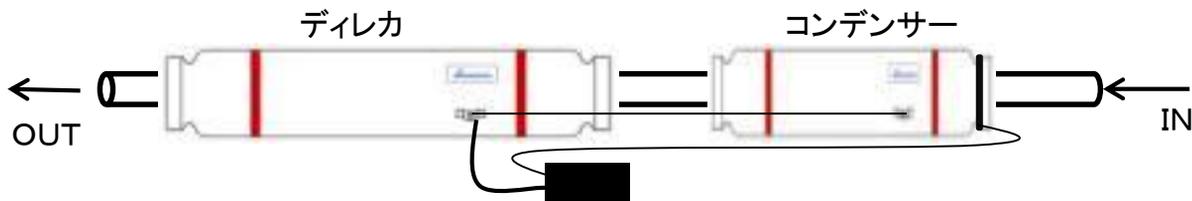
7. ITBの設置方法

- ・本書の指示通り、ディレカ本体とITBを取り付けを行ってください。
不備があるとディレカの能力が損なわれ、効果は低下します。
- ・ITBは5年を目安に交換してください。

- ・ディレカ単体の場合



- ・ディレカ+コンデンサー接続の場合



- ・本体イン側近くにある、SUS部分接続端子にITB端子をつなぎ、イン側の首の細くなった部分にITBリングを取り付けて、固定してください。
- ・コンデンサー併用の場合は、コンデンサー本体の接続端子とディレカ本体の接続端子をアース線で接続し、ITB本体の接続端子はディレカ本体に、ITBリングはコンデンサーのイン側の首が細くなった部分に取り付けてください。
- ・ITBの設置位置はスペースがある限りディレカ及びコンデンサーから離して設置してください。
くれぐれも、本体及び緩衝材に巻き付けて設置しないでください。
また、水濡れしない場所に設置してください。埋設したり、壁面にビス止めしても構いません。
- ・ITBは消耗品のため、交換が必要です(目安として5年)。設置の際は交換が行いやすいように量水器ボックス等を使用し、また、ディレカ本体の向きはITB端子を正面・上向きに設置してください。